資料５

現行西播磨地域ビジョン（抜粋）

■ 改訂地域ビジョン

〈基本姿勢〉　**～光と水と緑でつなぐ－元気・西播磨～**

〈４つの夢と目標像〉

人の輪社会	ふれあいを大切に、豊かな人間関係をつくろう	子育てを地域全体で支援し、子どもが健やかに育つ社会をつくろう
		女性が働きながら生き生きと暮らせる社会をめざそう
		高齢者が経験や能力を活かして、元気に地域で活躍できる社会をめざそう
		ボランティアの輪が広がる、暮らしやすいコミュニティをつくろう
		ふるさとに誇りを持ち、自立した地域をめざそう
		生きがいをもって働ける社会をめざそう
		情報通信技術（ＩＣＴ）を活かした地域づくりをめざそう
安全安心社会	住みなれた地域で支え合ってともに生きよう	高齢者が安心して暮らせる地域をつくろう
		障がいのある人が安心して、生きがいを持って暮らせる地域をつくろう
		誰もが暮らしやすい「ユニバーサル社会」をめざそう
		医療等や食の安全が確保された安心な地域をめざそう
		いつまでも健やかで心豊かに生活できる社会をめざそう
		災害に強いまちづくりをめざそう
		安全で安心して暮らせる地域をめざそう
環境王国	人と自然が共生する美しい西播磨をめざそう	ものが大切にされる「循環型社会」をめざそう
		低炭素社会をめざし、地球環境を守るライフスタイルをめざそう
		美しい揖保川、千種川、西播磨のなぎさをつくろう
		多様で健全な森づくりを進めよう
		環境に配慮した農林水産業と活力ある農山漁村をつくろう
きらきら西播磨	にぎわいと交流の元気な地域をつくろう	にぎわいと交流の地域をつくろう
		地域資源を活かした交流を進めよう
		伝統の祭りと新しいイベントを展開し、西播磨文化を発信しよう
		県際交流、国際交流を盛んにし、多文化共生の地域づくりを進めよう
		播磨科学公園都市を中心に産業基盤の整備を進めよう
		企業の創造的活動や社会貢献を応援しよう

第１の夢：人の輪社会・西播磨

“ふれあいを大切に、豊かな人間関係をつくろう”

【西播磨地域ビジョン検討委員会や夢会議等での意見】

○ 難しい言葉より、誠意のこもったわかりやすい親しみやすい言葉で表現したい。
○ 課外授業として、地域活動を行っている者による出前授業等の企画を検討したい。
○ 子どもが“考える力”や“協力しあえる力”“努力できる子”などが生かされる体験の場（環境）づくりに意識を高める。
○ 食育について考え、子ども自らが「食」への意識を持てるような関わり、環境を考えることが必要。
○ 子どもたちが心豊かに生き生き育ち合う地域にしたい。個性も大事だが、ともに育つ温かさを強調したい。
○ 核家族の子育てが孤立しないように地域で支援していく必要がある。
○ 地域の子はわが子を合言葉に地域全体で子育てを支援する。
○ 家庭が大事である。基本は親子の関係が中心である。
○ 女性が働くことは、企業への働きかけが重要なので検討したい。
○ 時短労働、フレックスを含むやわらかい表現の方が受け入れられるのではないか。誇りを持ち働くことに男女の差はない。むしろ子育て期に希望にあった労働形態がチョイス出来ればいい。
○ 働き方も大事でとても必要なことだが、保育環境の充実、安心して預けて働ける環境も重要である。
○ 非正規雇用の労働環境問題が社会化しており、「安心して働ける」環境が重要。
○ 高齢者は、ボランティアを中心とした活動にシフトして、仕事は若者に譲ろう。高齢者は、みなさん何かしたがっている。仕掛けを誰がし、何をするのかが大変。
○ 高齢者の知恵を若者が生かす。若者と年配者の交流、お年寄りと若者が気軽に交流できるまち、若者と老人が助け合えるまちへ。
○ 地域の三世代交流を進める。ふれあいいきいきサロンの開催。
○ 地域の行事等を通して大切な人間関係を学ぶ。
○ 子どもたちの自己肯定感・自尊心を高めるには親の愛情に満ち溢れた生育が大切。自己肯定感の強い子は何事にも捨て身になってチャレンジすることができ、失敗をおそれない。親の愛情、それを温かく見守り支える家族や地域の人々が重要である。自然の中での創造的体験も異年齢集団で群れて遊ぶことによる社会性獲得よりもまずは愛情の充足感が必要。それこそ、生きる意欲、希望、困難な時工夫する力の根源は自己肯定感の高さに他ならないと思う。
○ 子どもを地域の人たちの温かい目で見守ったり支援することが大切。
インターネット環境が、各家庭に普及してきている状況の中で、適切な利用が求められている。

【目標像】

（１）子育てを地域全体で支援し、子どもが健やかに育つ社会をめざそう

・子どもを産み育てやすい社会をめざします。
・家庭・学校・地域社会がそれぞれ責任を持ち、ルール・モラルを守り、協力して地域ぐるみで子どもを育てます。

・家庭から食育に取り組み、子どもの頃から地産地消のライフスタイルなど自ら「食」への関心を高める環境をつくります。

（２）女性が働きながら生き生きと暮らせる社会をめざそう

・家庭と仕事が両立し、働き続けやすい社会をつくります。
・誰もが能力を発揮でき、子育てをしながら働ける環境や様々な働き方が受け入れられる社会をつくります。

（３）高齢者が経験や能力を活かして、元気に地域で活躍できる社会をめざそう

・健康で、生涯を通じて学べる環境をつくります。
・住みなれた地域で、誇りと生きがいを持ちながら、知識と経験を活かして、地域活動など社会の担い手として活躍します。
・地域の三世代交流を進め、高齢者の知恵を若者に伝えるなど高齢者と若者が助け合えるまちづくりを進めます。

（４）ボランティアの輪が広がる、暮らしやすいコミュニティをつくろう

・さまざまな分野でボランティア活動が広がり、誰もが気軽に参画できる社会をめざします。
・地縁コミュニティ(※1)を基礎に、連携してさまざまな活動に取り組む地域をめざします。

（５）ふるさとに誇りを持ち、自立した地域づくりをめざそう

・伝統文化、祭りなどを通じて、地域のつながりを深め、地域の愛着・誇りを育みます。
・ふるさとに誇りをもち、地域に密着した仕事に取り組める社会をめざします。
・地域内外の交流連携を深め、地域の自立と活性化をめざします。
・地域の多様な主体が、連携・協力しながら、地域を支える人材の育成に取り組みます。
・地域の多様なニーズをきめ細かく満たすコミュニティビジネス(※2)が育ち、これを支援していく社会をめざします。

（６）生きがいをもって働ける社会をめざそう

・若者が希望をもって働ける地域をめざします。
・生きがいをもって働けるよう、自己研鑽、能力開発に取り組む人を応援します。
・ライフステージに応じた就業や生活様式に応じた多様な働き方が選べる社会をめざします。

（７）情報通信技術（ＩＣＴ）を活かした地域づくりをめざそう

・地域ＳＮＳの活用など、情報通信技術を活用した新たな交流のネットワークを地域に広めます。
・安全・安心に情報通信技術が活用でき、適切な利用ができる地域をめざします。

(※1)　**地縁（ちえん）**とは、住んでいる土地、過去に縁のあった土地といったつながり合いのことで、地域共同体、町内会、向う三軒両隣といった近隣住民の生活上の助け合い、相互扶助が期待される。地縁コミュニティとは、このような地縁関係の上に成立する自治会・婦人会・子ども会・老人会等をいう。

(※2)　**コミュニティビジネス**とは、地域住民や有志が集まり、地域の多様なニーズを満たし、社会的役割を担うために有償方式で行う活動をいう。

第２の夢：安全安心社会・西播磨

“住みなれた地域で支え合ってともに生きよう”

【西播磨地域ビジョン検討委員会や夢会議等での意見】

- ○ 一人暮らしの存在そのものを考え、一人暮らしを減少するために“家族の絆”とか、子どもとしての意識向上を考える必要がある。
- ○ ２０００年に介護保険制度が導入されたが、現在は制度として定着している。
- ○ 障がいのある人が出ていきやすい社会をめざす。
- ○ 障害者自立支援法がどうなるかだが、障がい者の雇用を促進し、社会の一員として誇りを持って生活できるように地域全体で取り組んでいく姿勢が大事。
- ○ 「ノーマライゼーション」というのは分かりにくい。
- ○ 安全安心社会は、福祉を基本に教育・環境・医療などが関わり合っている。
- ○ 経済情勢の悪化により自立支援事業の減少対策が必要。
- ○ 福祉のまちづくり条例からかなり時間がたつ。ハード面はだいぶ整備されてきたように思う。世代間交流を主眼にソフト面からのアプローチをされてはどうか。「友愛」の気持ちでひとりひとりが幸せを感じられる社会への転換が必要。
- ○ 医療については、近隣の市町が助け合って取り組んでほしい。
- ○ へき地における医師不足、また産科や小児科の医師不足は深刻。医師の確保に努めるのはもちろんだが、地域内での補完機能を充実させるとともに、広域連携やネットワークの構築が必要。
- ○ 医療に関する地域格差の是正が必要。
- ○ 健康づくりは、一人では続かないことも、家族や地域ぐるみで活動すると継続しやすい。
- ○ 生活習慣の改善の指導が重要。
- ○ 今回の水害により、災害に強い地域づくりのために積極的にアプローチする姿勢を盛り込んでほしい。
- ○ 防災マップ（ハザードマップ）の検証が必要。
- ○ 自主防災組織の活性化が必要。
- ○ 地域全体でパトロールをしたり安全な環境をつくっていきたい。(特に子どもの犯罪防止の徹底)
- ○ 子どもたちが被害者となる事件も増えているので、家庭、学校、地域の連携が必要。
- ○ 思いやりが飛び交うまち、顔がわかる（見える）人間関係のまちに。
- ○ 高齢者（一人住まい）の掌握、地域のつながりが大切。田舎ならではの近所づきあい。隣近所で声をかけあい安否を確かめ合う。
- ○ 地域の人たちとのつながり、声かけ、見守りができるまち。
- ○ 住民の悩みなどが聞けるような会をつくる。
- ○ 「みんなの声かけ」運動のまち、あいさつのできるまち、あいさつを掛け合うまち、気軽に声かけあいさつができるまち。
- ○ 近所同士のコミュニケーションを図る。

【目標像】

（１）高齢者が安心して暮らせる地域をつくろう

・必要とする方には、できるかぎり家族や地域が見守り支援することで、歳を重ねても安心して暮らせる社会をめざします。
・家族はもちろん社会全体が介護を支える地域をめざします。

（２）障がいのある人が安心して、生きがいを持って暮らせる地域をつくろう

・障がいのある人の雇用を促進するなど、社会参加を進め、社会の一員として誇りを持って生活できる地域をめざします。
・身近なところで、ニーズに応じたサービスを利用することができ、本人の希望や状況に応じた生活スタイルを選択できる社会をめざします。

（３）誰もが暮らしやすい「ユニバーサル社会」をめざそう

・すべての人が社会の構成員として、互いに支えながら共に生きる地域をめざします。
・バリアフリーはもちろんのこと、すべての人にとって「よりわかりやすく」「より安全に」「より快適に」暮らせる、優しい住みやすい地域をめざします。

（４）医療等や食の安全が確保された安心な地域をめざそう。

・医療・福祉・介護施設等が連携してネットワークを形成し、安心して医療等のサービス提供が受けられる社会をめざします。
・自らの健康を守る意識を持ち、正しい知識に基づいて適切に行動します。特に、新型インフルエンザなど新たな感染症に対しては、迅速かつ正確な情報提供にもとづき、的確な防御行動を行います。
・食品の安全に対する関心の高まりに対応するため、地産地消や健康的な食生活の実現に向けた食育を推進するとともに、普及啓発などを進めます。

（５）いつまでも健やかで心豊かに生活できる社会をめざそう

・家族や身近な人々と共に健康セルフチェックや健康診断を行い、生涯を通じ健康についての意識を高めます。
・食生活をはじめとする生活習慣の改善を行うとともに、体力やライフスタイルにあわせた健康づくりに取り組みます。

（６）災害に強いまちづくりをめざそう

・平成２１年台風第９号災害や東日本大震災など度重なる自然災害を教訓とし、住民、企業、行政等が連携して地域防災力の向上を図ります。
・地域で防災情報が的確・迅速に伝わり、緊急時に即応できる体制をめざします。
・平素から自主防災組織が実践的な防災訓練に取り組むとともに、要援護者に対する救援救護体制を確認しておくなど災害発生時の被害を最小限にとどめることをめざします。
・災害発生時に事業の継続・早期復旧がすみやかに可能となるよう、平素からの危機管理体制の強化を進めます。

（７）安全で安心して暮らせる地域をめざそう

・地域でパトロールを実施するなど、防犯意識や交通安全意識を高め、家庭、学校、地域が連携して事故や犯罪などのない安全な環境をつくります。
・隣近所や地域の人同士がつながり、声かけや見守り、あいさつができる、思いやりが飛び交うまちづくりを進めます。

第３の夢：環境王国・西播磨

“人と自然が共生する美しい西播磨をめざそう”

【西播磨地域ビジョン検討委員会や夢会議等での意見】

- ○ すでに社会的に「大量生産・大量廃棄社会」という発想の転換は行われている。
- ○ マイバッグ運動や簡易包装の商品、環境にやさしい商品の利用により、ごみの発生抑制に取り組んでいきたい。
- ○ 環境問題は私たちの日々の生活における、公徳心の問題だと認識をしている。自然公園の中で平気でゴミを捨てたり、吸い殻を捨て、もっとひどいのは「犬」の散歩で糞をさせたり、空き缶をわざわざ公園に持参して捨てる。私たちはこのような現実をしっかりと見つめ直し、一般社会への啓発啓蒙、小中高での学校教育で徹底した環境問題を呼びかけることが大切だ。
- ○ ごみ抑制や循環型の考えが必要。ごみゼロというのは理想だが難しい。
- ○ ごみ処理有料化も視野に入れて検討が必要。
- ○ 地球環境の危機的状況を認識すべき。
- ○ クリーンエネルギーへの切り替え、温室効果ガスの削減をめざす。
- ○ 環境保護に取り組んでいる団体を支援するとともに住民の参画を促し、地域全体の取り組みとしていくことが重要。
- ○ 環境問題は世相的にもごくごく身近な問題と認識をしている。私たち人間の生命をも左右する、根本的な問題であることへの呼びかけが大切。しかし、その認識は深刻にならなければ深まらないのも事実のようなので、１人ひとりの環境に対する認識を深める運動を高めてほしい。
- ○ 意識を高めるために、学校などでの環境学習をより充実させていく。
- ○ 千種川圏域清流づくり委員会、西播磨なぎさ回廊づくり連絡会、その他の森・、川・海で活動中の団体を地域ビジョン委員会でまとめてシンポジウム等企画してみてはどうか。
- ○「自然災害に強い森」という考え方が必要。
- ○ 学校教育の中でもっともっと「森林」の果たしている効果をしっかりと教育していかなければならない。
- ○ 荒廃した山の恐ろしさ、倒木による２次災害、がけくずれ等の認識が必要。
- ○ 地産地消を進めるとともに、生産者との交流を通じた食育を進めることが重要。地域の食材を使った料理を作る。特産品をもっと地域に広め、地産地消を推進し、そこからご当地グルメなどが生まれ活性化につながる。
- ○ ＥＮＪＯＹ！農業・漁業の活性化を目指してスーパーや給食等で地域の農産物等を使ったり、朝市などで地域の農産物、水産物を広くＰＲする。
- ○ 農作業体験や田舎暮らし体験を通して、地域住民と交流を進め、地域の活性化を図ることが重要。
- ○ 地球温暖化防止に取り組む姿勢が世界的にも形成されつつあり、その中でも「森林」の果たす役割、自然環境を守る努力、そのシステム構築が大切だ、ということを広く呼びかける姿勢を持ちたい。
- ○ 私達の生命を維持してくれるのは「水」の源となる「山」。その上にある「森林」を見直す機会ではないかと思う。世界的に見ても森林の衰退が砂漠化へ、そして環境破壊へと進展している。森林の偉大な効果を今一度見直してほしい。

【目標像】

（１）ものが大切にされる「循環型社会」をめざそう

・資源には限りがあるという認識を持ち、使えるものは大切に長く使い、分別収集やリサイクルに取り組みます。

・マイバッグ運動や簡易包装の商品、環境にやさしい商品の利用により、ごみの発生抑制に取り組んでいきます。

（２）低炭素社会（※３）をめざし、地球環境を守るライフスタイルに転換しよう

・進行する地球温暖化に対応したライフスタイルの転換に努めます。

・地球環境の危機的状況を認識し、太陽光発電をはじめとするクリーンエネルギーへの切り替え、省エネルギー、省資源により温室効果ガスの削減をめざします。

・環境保全に取り組んでいる団体を支援するとともに、住民の参画を促し、地域全体の取り組みとしていきます。

（３）美しい揖保川、千種川、西播磨のなぎさをつくろう

・地域の豊かな自然環境のシンボルであるホタルを育む水辺に親しみ、身近な自然環境への意識を高めます。

・西播磨の多彩な「なぎさ」を「守り」、「創り」、「楽しみ」、「育む」ことにより、なぎさを舞台に人・地域・情報の交流とネットワークを推進します。

（４）多様で健全な森づくりを進めよう

・森林の持つ多面的な機能を高めるため、森林の伐採、間伐、下草刈りが行われ、自然災害に強い、良質な森林の拡大をめざします。

・「県民オアシスーしそう森林王国㈭」など、豊かな自然とふれあい、多彩な交流のできる、多様で健全な森づくりをめざします。

（５）環境に配慮した農林水産業と活力ある農山漁村をつくろう

・水と緑に恵まれた西播磨の地域資源や環境を守るために、地域住民との参画と協働によって活力ある農山漁村づくりを進めます。

・地産地消を実現するため、新鮮で安全安心な地元農林水産物を地域住民に供給するとともに、地元食材を食べる運動の展開、地元食材を活かした商品づくりを進めます。また、「食」と「農」の大切さを見直し、食育を進めます。

・中小企業者と農林漁業者が連携し、付加価値の高い農林水産業を振興し所得の向上を目指すとともに、後継者や新規就農者に加え集落営農組織など農業の担い手育成を図ります。

・都市農村交流拠点施設の情報発信機能を一層強化するとともに、農作業体験や田舎暮らし体験を通して、都市住民と地域住民との交流を進め、地域の活性化を図ります。

㈭　**低炭素社会（ていたんそしゃかい，Low-carbon society）**とは、二酸化炭素の排出が少ない社会のこと。低炭素型社会、脱炭素社会ともいう。

㈭　**しそう森林王国**とは、旧宍粟郡５町において、平成元年から森林を活かして快適な生活空間・交流空間づくりを進めているもの。拠点エリアとして宍粟市山崎町に「国見の森公園」などが整備されている。

第４の夢：きらきら西播磨

“にぎわいと交流の元気な地域をつくろう”

【西播磨地域ビジョン検討委員会や夢会議等での意見】

○ 平成の大合併により各市町の中心市街地が分散した形になっている。さらに人口減少が進行しつつある今、商・住・遊・ビジネスの集積は不可能に近いものと考える。また商店主の高齢化・後継者不足など商店街そのものの存続が危ぶまれている。空き店舗対策、魅力ある商店街づくりの推進は困難な状況である。

○ 合併で市町の数が減ったことから中心市街地の数も減った。旧市町では、支店機能が失われつつあり、寂れるばかり。

○ 新宮町の中心部では市内からの転居による人口増が見られますが、中心部が元気になったかというとそうでもない。

○ 商店街に活気は戻っていない。魅力ある商店街の再構築は困難というより不可能に近い。パラダイム転換を図り、２１世紀にふさわしい新しい街のスタイルを模索していくべきではいかと思う。

○ 市街地再開発、土地区画整理などの面的手法を活用し、住民合意に基づいた住民参加型の街路、公園緑地などの生活インフラの整備を進め、また身近な地域拠点を中心に、地域でともに生きる生活環境の醸成を目指すべき。

○ 上下水道や区画整理など進んでいる地域も増えてきているのではないか。

○ ハード面の整備は、ほぼ終わっている。これから更に整備していくのは、景気対策の公共事業のようで、将来像としてはどうかと思う。

○ 学校施設を地域住民に開放し、交流を促進する方法で、世代間交流が進めばいい。

○ もっと姫新線の列車の回数や車両を増やし、駅をきれいにし、内外交流を充実させたい。

○ 既存インフラを有効活用し、交流が促進できるようなソフトメニューを整備し、推進すべき。

○ 西播磨地域を「封建的、閉鎖的」という受け止めは一方的ではないか。そこに“文化、伝統”の源がある気もする。

○ 伝承文化を若い人に継承し“ふるさと大好き”と思える環境をつくっていくことが大切。

○ 現在の播磨を代表するお祭りを内外にＰＲし、播磨の空気に触れていただくのは良い事だと思う。

○ 祭りを地域で盛り上げ、地域の行事を増やすなど地域の文化を生かし西播磨を活きた町にする。

○ 西播磨ツーリズムなどの動きはあるが、地域が広域過ぎるので、滞在型観光はこれといった宿泊施設が観光資源と隣接していない。また１次産業への懐古が増幅されている昨今の社会状況から見て、体験型（当然宿泊を伴う）観光の提案が今後の交流人口を増やす目玉ではないか。

○ まだ知られていない播磨の魅力を発掘し、個性的な取り組みをしている人材を発掘し、笑顔と挨拶で、播磨の「おもてなしの心」を域外から来られた方に提供し、心地いい地域を目指したい。

○ 異文化交流は外国との交流にはとどまらないと考える。漁村と山村の交流、都市と過疎地の交流も大きな意味で異文化の交流ではないか。

○ 日本とか西播磨の良さをアピールし、世界に発信する思いを折り込んでも

よいのではないか。
○ 国際化に対応するだけではなく、播磨の特色を出し、個性的で、吸引力のある地域になるような取り組みをすべき。
○ 一般住民にも産業技術が理解、応援できる場の提供も大切。
○ 地元産業を大人から子どもまで皆がそれなりに理解し自慢に思える意識向上の機会がほしい。
○ 播磨科学公園都市に進出している企業だけでなく、地域全体の企業を捉え、その中心が播磨科学公園都市にあるというようなイメージではないか。

【目標像】

（１）にぎわいと交流の地域をつくろう

・駅前広場や商店街などの地域中心地区で、特性を活かしたにぎわいのある暮らしやすい「個性をもったまちの顔」づくりを進めます。
・一層の人口減少に伴い、増加しつつある小規模集落では、住民、ＮＰＯ、行政などが連携し、空き家等を活かした地域内外との交流、田畑や山林などの維持管理や利活用を進め、農山村部の再生、持続する集落づくりをめざします。
・既存の交通基盤を改良しつつ積極的に活用して、地域間交流を進めます。

（２）地域資源を活かした交流を進めよう

・西播磨のなぎさなど地域の豊かな自然や宿場町などの歴史・文化資源を活かした交流を進めます。
・農林水産業の体験や、地産食材で郷土料理を提供するなど、“おもてなし”で体験型観光や滞在型観光を促進します。

（３）伝統の祭りと新しいイベントを展開し、西播磨文化を発信しよう

・西播磨には、豊かな自然環境や地域で培われた祭りや伝統文化が保存・継承され、また新しいイベントも各地で活発に開催されています。これらを活用して人々が親しみ、楽しめる地域を作るとともに、西播磨文化を発信していきます。

（４）県際交流、国際交流を盛んにし、多文化共生の地域づくりを進めよう

・西播磨地域の特性を活かし、岡山県や鳥取県との県際交流など広域的に出会いや交流を深めます。
・国際化に対応したまちづくりや異文化とふれあう仕組みづくりを推進します。また、外国人県民の文化、言語、生活習慣の違いを認め合う多文化共生の地域づくりを進めます。

（５）播磨科学公園都市を中心に産業基盤の整備を進めよう

・ＳＰｒｉｎｇ－８（大型放射光施設）やＳＡＣＬＡ（Ｘ線自由電子レーザー施設）、県立大学及びニュースバル（中型放射光施設）、放射光ナノテク研究所などを活かし、優れた人材が集い、世界一の先端技術の集まる地域をめざします。
・工業団地などの都市基盤を活用して、西播磨経済をリードする商工業、流通などのビジネス拠点の形成をめざします。

（６）企業の創造的活動や社会貢献を応援しよう

・日本を代表する地場産業や先端科学技術を活用した企業の集積を活かして地域経済の発展を目指すとともに、企業の新技術の開発など企業の創造的活動を応援します。
・地域との連帯感を強め、社員や住民の地域活動を支援する社会貢献活動を行う企業を応援します。